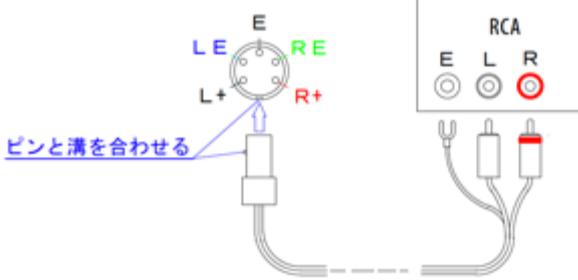


## 5 出力コードの接続

1. トーンアームの5Pプラグ溝に出力コードのピンを合わせ、しっかり押し込みます。
2. ピンジャック (RCA) はPhono端子の付いたアンプに接続。そしてアース線をアース端子に接続。
3. ボリュームを少し上げ「ブー音」が出たら接触不良です。カートリッジとヘッドシェルリード線、ヘッドシェルとトーンアームの接続点、トーンアームプラグと出力コードの接続点、出力コードとアンプの接続点を御確認下さい。特にアンプへのアース線を御確認下さい。アース線が接続されていないと「ブー音」が出ます。

①トーンアーム5Pプラグ溝 ② Phonoアンプ・昇圧トランスなど



## 6 ヘッドシェルの取付け

1. ヘッドシェルはアームパイプ先端の着脱ロックナットを緩めてヘッドシェルを取付けて下さい。
2. 前から見て傾いていたなら、着脱ロックナット (①) 後ろの下側ネジ (②) を緩め、シェルの傾きを修正して、再びネジ (①) を締めて下さい。

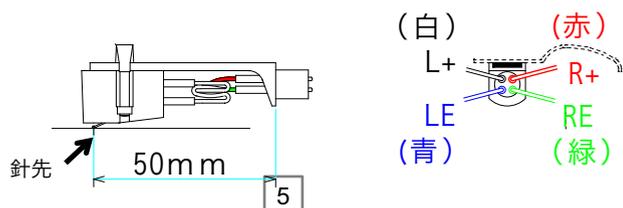


## 7 カートリッジの取付け

1. ヘッドシェルにカートリッジを取り付けてください。下の図のように針先から根元までが50mmになるようにフィンガーをM2.6のネジで締めます (±2~3mmの誤差は問題ありません)。

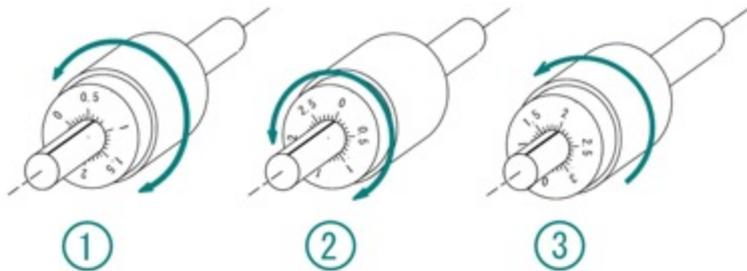
**注意：**このヘッドシェルはカートリッジからの漏れ振動をしっかりサポートする為、カートリッジ本体の心臓部により近い場所にヘッドシェルを固定したスリムな構造になっております。ネジ締めは必要以上に締め込まないでください。繊細なカートリッジが変形することがあります。

2. リード線の接続は、図のように接続してください。



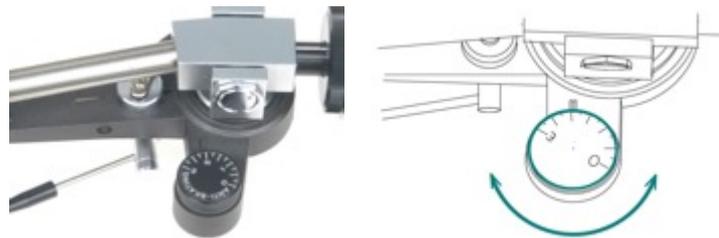
## 8 針圧の調整

1. ウェイトを左右に回転させて水平バランスをとってください。
2. 次に、目盛リングだけを廻して"0"をカーソルに合わせます。
3. そしてウェイトを左に廻して規定値の針圧をかけてください。(目盛の数字はgを表します。5gの場合は1周後 (これで3g) さらに2まで回します)



## 9 インサイドフォースキャンセラーの調整

1. まずプレーヤーの水平を水準器に合わせて下さい。
2. インサイドフォースキャンセラーは、ツマミを回して調整します。(本来インサイドフォースキャンセラーは針圧に比例するもので、針先の形状とレコード盤への接触条件で変動するため、数値は目安です)
3. 内周に針飛びする場合はインサイドフォースキャンセラーを多くかけてください。特に針飛びを起こさないようでしたら、インサイドフォースキャンセラーは少な目でも構いません。



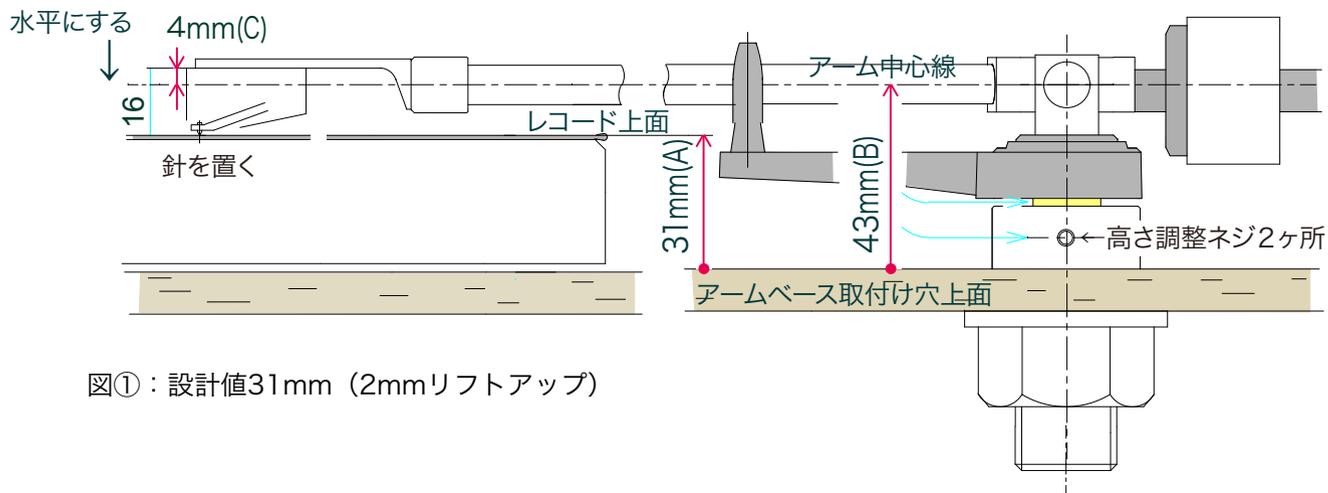
## 10 重量ウェイトの調整 (サブウェイトMH-BSW別売)

重量ウェイトを装着するとヘッドシェルとカートリッジの合計重量が40gまで使用可能です。

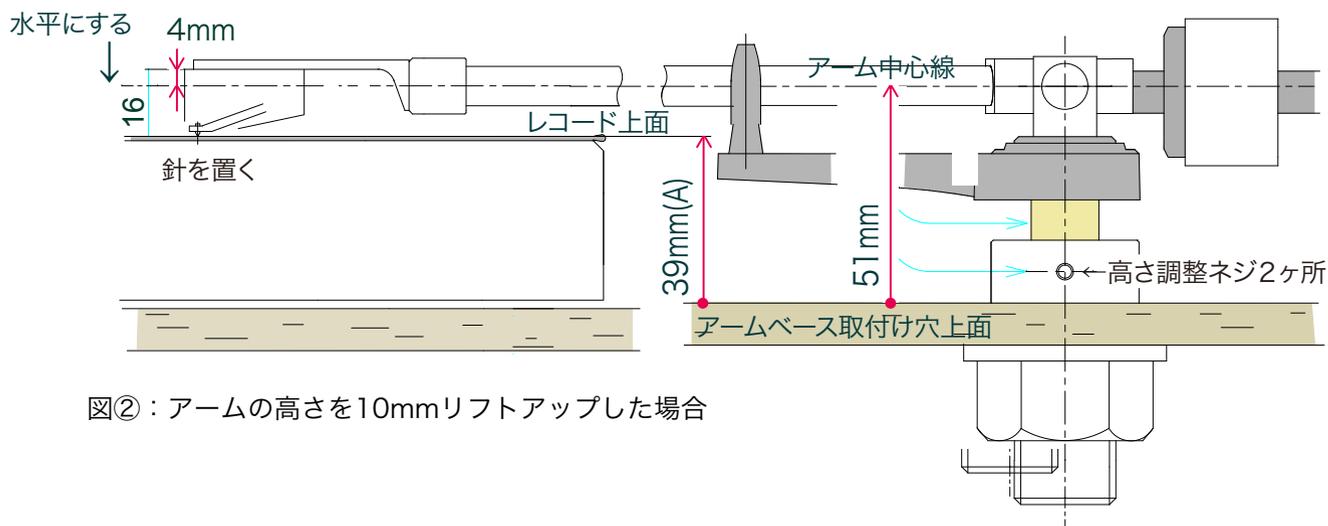
- ① サブウェイトをメインウェイトに密着させます。
- ② メインウェイトとサブウェイトを同時に回しゼロバランスをとります。
- ③ 目盛を0に合わせます。
- ④ サブウェイトを回さずメインウェイトのみを回し規定の針圧のグラム数に合わせます。



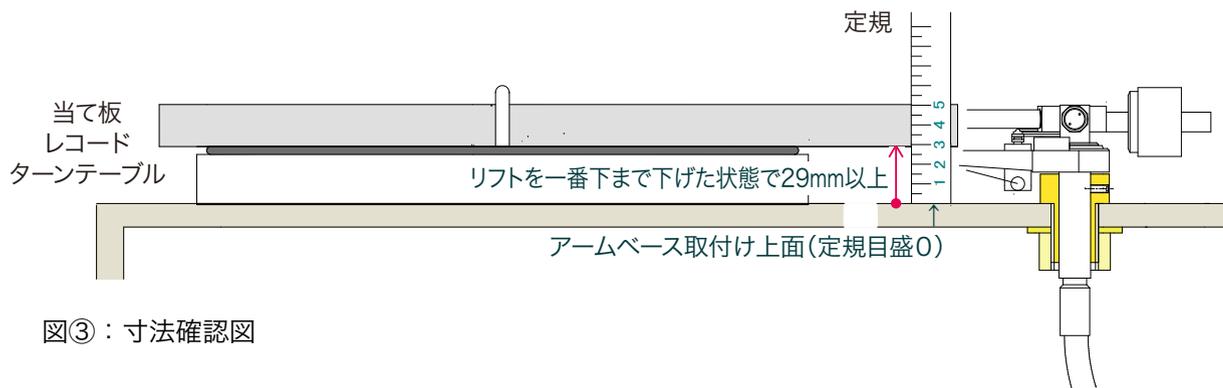
トーンアーム取付・寸法確認図（拡大図）



図①：設計値31mm（2mmリフトアップ）



図②：アームの高さを10mmリフトアップした場合



図③：寸法確認図

トーンアーム取付完了図（拡大図）

レコードに針を乗せ、アームを水平に2本のネジで調整

